

令和六年三月号

《第一三五号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

弥生の祭典・行事案内



【月次祭】

九時半

六(水) 己巳の日

小札の授与

三十日(土)

小札の授与

【昭和天皇御製】(第一二四代)

「曉鷗声」

ゆめさめて我世をおもふあかつきに長鳴き鳥の声ぞきこゆる

(昭和七年)

新年恒例の「歌会始の儀」が一月十九日に皇居で「和」のお題にて行はれました。皇族の方々のお歌と一般応募の一万五千二百七十首の中から入選した十人の歌が古式ゆかしく披露されました。

陛下の御製

をこちらの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心とみぬ

【節分祭】 二月三日

不順な天候でしたが、三十五名の参列者のなか、午後三時より祭典が斎行されました。斎主は宮司が、典儀を禰宜が、そして、巫女が「浦安の舞」を奉納しました。祭典の終了



後には、宮司が拝殿の四方より大声にて豆撒き神事を行ひました。「福豆」の授与の後に境内に移動して、年女の方と一緒に行ひ無事に節分の行事を終了することができました。

【紀元祭】 二月十一日

今年の「建国記念祭」は月次祭(巳の日)に

日曜日も重なり、二十八名の参列のなかで斎行されました。禰宜が典儀と伶人を務め、奉納は、巫女が「神舞」

を、光洋流吟道会が「名槍日本号」を、そして、

全員で「紀元祭の歌」を斉唱し



ました。

宮司は挨拶において、多くの方とわが国の建国をお祝い出来たことの感謝と、あるアンケートを紹介し、高校生の中には、日本を建国したのは「マッカーサー」と答へた事などを述べ、戦後の偏向教育への憤りと、国家の誕生を政府主催でお祝いしないこと等、六年間のGHQ占領政策下の影響から「日本を取り戻す」ことの切実さが訴えられました。

【推薦図書】

『真・保守論』—國體の神髄とは何か—

馬淵睦夫著 一八七〇円

徳間書店

「……いわゆる『保守』を名乗る言論人たちが増える一方の現在、保守とは何かを説明できる方は何人おられるのでしょうか。」

真・保守論

國體の神髄とは何か

馬淵睦夫



保守という意識があまりにも無視され、使用されている

現在の保守論が隔靴搔痒であることに危機感を覚えたため、本書の出版に至ったと言つても、過言ではありません。

本書を読んでいただければおわかりのように、保守とは天皇を正しく理解し、天皇を

お守りすることに尽きます。私たち日本人の軸こそ、天皇なのです。日本国家は天皇と不可分であり、日本人もまた、天皇と不可分の一体であるのです。」

（終章 保守とは何か）から

『日本保守党』—日本を豊かに、強く—

百田尚樹・有本香 著 一五〇〇円＋税

飛鳥新社

「日本ほど素晴らしい国はないと私は断言します。」

神話とともに成立し、以来およそ二千年、万世一系の天皇を中心に、一つの国として続いた例は世界のどこにもありません。これ自体が奇跡といえるでしょう。

日本列島は豊かな自然に恵まれています。が、反面、世界有数の地震国であり、台風や河川の氾濫、豪雪など、つねに厳しい災害に見舞われてきました。そのなかで日本人は互いに助け合う知恵を育み、和して穏やかに暮らしてきました。古代の漢籍に「日本人は盗みをしていない。争いは少ない」と記

日本を豊かに、強く。



10万部突破

人は、誰のために生きるのか。
愛する日本を守りたい！

百田尚樹 有本香



日本保守党

されています。幕末から明治にかけて日本を訪れた欧米人らも一様に、日本人の誠実、勤勉、善良さを特筆しています。

同時に私たちの先人は、痛手を受けても立ち直る逞しさをも増えました。・・・」

（日本保守党の結党宣言より）

《3月の主な行事》

3日	ひな祭り
5日	啓蟄（けいちつ）
17日	彼岸入り
20日	春分の日
	春季皇霊祭
23日	彼岸明け



気ままに『古事記』（五十五）

山幸彦の勝利

そこで鰐魚（かみゆい）どもが自分の身体の長さに応じてかかる日数を述べ、一尋の鰐魚が申すには、『私なら一日でお送りし、すぐに帰ってきます』と言ひました。海神はその鰐魚に『それではお前が送って行くとよい。海を渡る時には怖い思ひをさせないやうに』と申され、火遠理命を鰐魚の首に乗せ送り出されました。

鰐魚は約束通りに、一日で帰ってきました。鰐魚がもどる前に、火遠理命は身に帯びた紐小刀を外して、鰐魚の首に付けてやりました。だから一尋の鰐魚は今も佐比持神（さひもちのかみ）と呼ばれてゐます。

そして、海神の言ふとほりに釣針を兄の火照命（ほでりのみこと）に返ししました。やがてその兄はどんどん貧しくなり、心を荒げて攻めてきました。攻めて来た時には、潮満珠

を出して溺れさせました。泣びて憐れみを乞ふて来たときには、潮干珠を出して救つてあげました。

かうして、悩ませたり苦しめたりしてゐる内に、兄の火照命が申すには、『私はこれから先、あなたを昼も夜も守つてお仕へします』と。それで、彼の子孫は儀式の中に溺れるしぐさを様々に真似た所作をして今に至るまで天皇にお仕へしてゐるのです。（続く）

「日本保守党」といふ書籍を紹介しましたが、ここには此の政党を創設したいきさつや、結党せざるを得なかつた事情が述べられ、また、百田氏と有本氏への多くの方々の応援と激励のことが載せられてゐます。結党したきっかけは政府・自由民主党が「GDP理解増進法」なる法律を成立させたことでした。テロによる非業の死をとげた安倍晋三元総理はこの法律だけに成立させてはならないと、周囲の仲間と話してゐたさうです。安倍元総理が亡くなると手のひらを返したやうに、側近までが裏切りこの悪法を阻止しなかつたのです。このやうな自民党内には「國體」を護持する意志はなく、真の保守政党が今こそ必要であると「やむにやまれぬ」心境にて結党されたことが縷々記されてゐます。既に党員数は5万人を超え、その波紋は広がっており、やがて大きなうねりとなることを期待するものであります。